YCスタッフの救命等報告 2013年(平成25年)

YC(読売センター/読売新聞販売店)では、スタッフが配達や集金などの業務中、大切な人命を救うことができた――という場面に、度々遭遇しています。これは新聞販売が、昔から「人と人をつなぐ」仕事であることに起因しています。

YC所長も、日頃から自店スタッフに対し、〈お得意さん=読者〉に対するこころのサービスを意識付けしています。

「毎日、新聞が来るのを玄関前で待ってくれているおじいさんが、今日は自分を迎えてくれていない。どうしたんだろう」

「この時間にはいつも電気がついているのに、昨日も今日も消えたまま。何かおかしいぞ」――など、普段と様子が異なっていることに、スタッフは敏感に気づきます。その気づきが「人命救助」というファインプレーを生み出す伏線となっています。

2013年の救命等報告(スタッフの活躍)を、ここに紹介させていただきます。

1 YC鶴見東部(神奈川県横浜市)

夕刊配達途中、読者宅の新聞がポストから抜かれていないことに気づいた。声掛けをしたが応答がなかったので、つぶさに様子を見てみると、室内で倒れている高齢男性を発見。直ちに通報し、読者は運び込まれた病院で一命を取り留めた。

――1月4日

2 YC川之江(愛媛県四国中央市)

夕刊配達途中、配達スタッフから「部屋の電気がついているのに新聞がたまっている家がある」との報告を受けていた主任スタッフがその日の夜、民生委員と再訪問。新聞は郵便受けに残ったまま、ドアの鍵もかかっていない状況に異変を感じて四国中央署に通報。署員が室内で倒れていた男性を発見し、病院へ搬送。事なきを得た。

――1月20日

3 YC新河岸南部(埼玉県川越市)

配達業務途中、一人暮らしの高齢者宅に新聞がたまっているのを不審に思ったスタッフが、YCに連絡。連絡を受けた区域担当者が当該読者宅を複数回訪問したが安否確認できず、最寄りの警察署に通報。駆けつけた警察官が糖尿病で衰弱していた男性読者を室内で発見。無事救助となった。

――1月22日

4 YC御坊(和歌山県御坊市)

YCの主任スタッフが、配達スタッフから郵便受けに新聞がたまっているとの報告を受け、読者宅を訪ねた。外から声をかけたところ「大丈夫や」との返事。しかし、どうしても違和感が拭えなかったため、YCへ連絡して店長と読者の子息とともに家主に鍵を開けてもらって室内に入ってみると、80歳代男性が倒れていた。発見が早かったため、救命することができた。

――1月27日